

横浜市立義務教育学校 霧が丘学園 学校評価報告書 (平成29年度)

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	<p>○学習の成果と課題を分析し、学習状況調査結果などを参考に、小・中学習指導部会、教科会等を核として児童生徒の学力向上に取り組む。</p> <p>○小中共同授業研究会等を通じて、思考力や表現力の育成に向けた授業力の向上、授業形態の工夫、指導スタンダードの設定などに取り組む。</p>	<p>○小・中学習指導部会を定期的に開催し、児童生徒の学力向上に向けた取組を推進することができた。全国の学力・学習調査の結果から、小・中学習部ともに平均正答率は上位であった。</p> <p>○8回にわたる共同研究会を実施し、協議等を通じて「自ら「見出す」伝える 深める」子どもの学びを目指す」ための共通理解が深まった。</p>	A
豊かな心	<p>○各教科等を含む様々な教育活動を通じて、それぞれの発達段階に応じた「自己有用感」の育成に取り組む。</p> <p>○児童生徒の交流活動等の機会を活用し、思いやりの心を育成する。</p> <p>○実体験・本物体験・地域体験・情操教育などの機会を活かし、正しい判断力、思いやりの心、公共心や社会貢献の意識の伸長を図る。</p>	<p>○小・中学習部と中・高学習部を結ぶ「渡り」が整備され、念願の屋根が設置された。児童生徒の交流がさらに進み、授業、クラブ活動、部活動、学校行事等の機会をとらえ自己有用感の育成に努めた。その結果、国立教育政策研究所の協力を得て実施している「わたしたちの学校生活しらべ」において自己有用感の向上が確認できた。</p>	A
健やかな体	<p>○新体力テストのデータを参考に、小学部体育部、中学部体育科を中心に共同授業等に取り組みながら、児童生徒の体力向上に努める。また外部の有識者等の協力を得て、体力向上に関する客観的なデータを収集、蓄積し活用する。</p> <p>○生活意識調査結果などを参考に、保健・安全面の指導の充実を図るとともに食育指導に取り組む。</p>	<p>○小学部体育部、中学部体育科が核となり、また大学や教育委員会の協力を得て体力の向上に関する指導が推進されている。</p> <p>○小学部、中学部の合同保健委員会を開催するなど、学園全体で健康の保持、増進に取り組んでいる。</p> <p>○小・中学習部の交流給食「きりたま給食」の実施、食育への意識が高まった。</p>	A
教育課程・学習指導	<p>○義務教育学校としての特色を明確にした教育課程の展開に取り組む。</p> <p>○小・中・中学部の役割を重要視し、9年間を見通し子どもの実態に即した指導を行う。</p> <p>○特別の教科道徳の実施に際し、適切な指導や評価にあたる。</p> <p>○学習指導要領改訂を視野に入れ、準備を進める。</p>	<p>○小・中学習部と中学部の授業開始時刻を揃えることができ、午前中の授業では、小中の各教員の相互乗り入れ授業を円滑に実施できた。すべての教科で中学部教員による小学部授業ができた。このことにより今後は一層、学校の特色を活かした学習活動が展開できるようになった。</p>	A
児童生徒指導	<p>○児童生徒指導部会を中心に研修や協議・対応等とともに、機能的な指導形態と情報共有に努める。</p> <p>○「いじめ」等については、児童支援専任教諭、生徒指導専任教諭を中心に情報共有の徹底をめざすとともに、緊密に連携を図り防止や早期発見に努める。</p>	<p>○児童生徒指導部を核として、情報共有と協力が推進された。</p> <p>○「情報の見える化」を目標として、全児童生徒の氏名、顔写真、これまでの主な指導歴、その他について全教職員が自己のパソコンでいつでも確認できる体制が整った。</p>	A
地域連携	<p>○学校便りやホームページ等の媒体を活用し、保護者や地域に学校からの情報発信を行い学校の状況や取組方針に理解を求め協力を引き出す。</p> <p>○連合自治会等の地域関係団体との連携を強め、学校教育への支援を求める。</p> <p>○とりわけ、児童生徒の安全や健全育成にむけた協力を得られるように努める。</p>	<p>○学校だよりや学校ホームページ等を活用し学校情報の提供に努めた。</p> <p>○顕著な実績をあげた児童生徒に対して、連合自治会も表彰してくれるなど、引き続き地域社会が子どもの健全育成に向けた協働体制を得ている。</p> <p>○地域等の行事等に積極的に参加し、連合自治会等と良好な関係が形成されている。</p>	A
学校運営協議会	<p>○様々な機会をとらえ学校運営協議会委員とのコミュニケーションに努め、保護者や地域住民等の意向を把握し、学校運営・教育活動に反映させる。</p> <p>○学校教育だけでは指導や取り組みが困難である件に関しては、学校運営協議会委員等からの情報をもとに、地域の人材や学校教育ボランティアの積極的な活用を図る。</p>	<p>○学校運営協議会委員からは建設的で前向きな多くの意見等を得ることができた。</p> <p>○この意見を基本として、「霧が丘」ならではの小中一貫教育の長を生かした学校体制を構築、創造しようとする意識が高まっている。</p>	A
人材育成・組織運営	<p>○義務教育学校としての特性を活かした学校経営への参画意識の向上を図る。</p> <p>○メンターチームを編成し、教師力の向上を図る。</p> <p>○義務教育学校としての組織が機能的に動くように努めるとともに、小・中合同の指導部会や教科会の充実を図る。</p> <p>○コンプライアンス、児童生徒指導・いじめ等の情報共有や危機管理などについて、迅速的確に対応できるように努める。</p>	<p>○教科会、指導部会を小中合同開催としたことで、意見交流が推進された。小中企画会では、今後の義務教育学校の歩む方向性について検討されている。</p> <p>○小学部では活発なメンターチーム活動が実施された。中学部においては相互に経験を披露しあいながら指導力の向上に努めた。</p> <p>○各取組等を通じて、9年間を見通した教育活動の推進がなされ、義務教育学校としての意識が高まった。</p>	B
いじめへの対応	<p>○児童生徒一人ひとりの状況についての記録を作成し、校長、准校長をリーダーに担任や学年職員、児童支援・生徒指導専任教諭からなるチームによる支援を進める。</p> <p>○必要に応じて北部学校教育事務所、区役所、児童相談所等、関係機関とも積極的に連携する。</p>	<p>○いじめ防止基本方針を見直し、広く意見をいただいた。基本理念の項目では、「霧が丘」の名前を入れ、地域全体でいじめ防止に取り組むという力強い支援をいただいた。</p> <p>○中学部では、生徒の小さなサインを見逃さないよう、毎月アンケートを取るなど情報の収集と情報共有を推進した。</p> <p>○相談活動がよりし易いように、相談室(カウンセラー室)を2階から1階へ移設した。</p>	B
学校関係者評価	<p>○学校が良い方向に変化しているのがわかる。子どもたちも健やかに成長していると理解する。</p> <p>○地域の学校として地域も最大限の協力を惜しまないつもりである。</p> <p>○義務教育学校として今後にもさらに様々な活動を通じて、小中一貫教育を推進し子どもたちを伸ばしてほしい。</p> <p>○教科指導、行事への取組、部活動指導等によって教職員の負担が気がかりである。十分に休養をとれるよう学校経営にあたって配慮してほしい。</p>		
学校経営中期取組目標振り返り	<p>○義務教育学校への移行2年目となり、今後の進むべき方向について各教職員で検討に取り組んでおり、それぞれの経験を活かしながら新たなチャレンジを進めている。</p> <p>○保護者、地域からの本校に対する関心は高く、様々な意見が寄せられている。多くの協力支援をいただき、学校家庭地域の協働体制がさらに深まった。</p> <p>○このような状況のもと客観的にも主観的にも児童生徒は健やかな成長を遂げることができている。学力についても全国学力・学習状況調査の結果から向上していることが読み取れる。</p> <p>○生徒の自主的活動、リーダー性の育成について、特別活動等を通じて伸ばして行きたい。</p> <p>○次年度も学校の特性を活かした教育活動を推進していきたい。</p>		